

達が秀頼様の味方となつて勇ましく戦つた。熱心なる信者ヨハネ明石掃部殿は異教徒の真田左衛門佐、及び背教者なる後藤又兵衛と共に秀頼様の最高の部将であつた。そしてヨハネ掃部殿とその部下の外に、ジュスト高山右近殿の旧臣や最近の迫害で郷国を追放された多くの信者達が秀頼様の味方に馳せ参じた。

余とデイエゴ・バプチスタ師の両人はこれらの人々に精神的な援助を与えるため、開戦の前に大阪城内へ赴いた。アウグスチノ会のエルナンド・デ・サン・ヨゼフ師、フランシスコ会のアポリナリオ・フランコ師、及び長崎の奉行村山東安の子で俗間司祭のフランシスコ師等も同じ目的で城内に來り、かくて我々は内府様との戦の準備が進められている間、やがてその靈魂を神の御手に委ねべき人々に対し慰めと励ましを与える仕事に携つていたのである。決戦はこの国の第五の月、即ち我等の六月の六日から八日に亘つて行われた。

余とバプチスタ師は城内が猛火に包まれた時、掃部殿の館を逃れ出たが、内府様の兵に追撃され、ためにバプチスタ師は肩と背を傷付けられ、余もまた全身数カ所に傷を負つた。

勝利を得た軍隊は全市に亘つて掠奪放火虐殺をほしいま

に住んでいたということである。そして、先の火災で庇護者の一族は他へ立退いてしまつたけれども、弥三郎は市内に留まつて、曾て習得した医師の技を活かし負傷したり病氣になつたりした気の毒な人々の救済に當つていたのであつた。彼は信者でないにも拘らず、異国人である余等商人に對しても非常に親切であつた。若しこの世に善き異教徒という者があるとすれば、弥三郎はまさしくそれであつた。

年の頃は四十近いが、柔和で上品なその容貌は若年の頃美しかったに違ひないものである。態度や言葉遣いも穏やかで礼儀正しく、而も人に親しみ易い感じを与える。右足が幾分眼につくほど悪く、やや不自由らしい歩き方をするが、それが一層彼の持つ柔和な雰囲気深めていようであつた。

間もなく、余等の滞在を聞き伝えて多くの人々が新右衛門の家に集まつて來た。内府様と彼の將軍たちは刑罰と論功行賞のことに忙しく、我々に対する迫害の手は一時緩められていたのである。バプチスタ師はなお重態であつたが、余は起上れるまでになつていたので、集まつて來る人々のために日々祈禱と説教を行い、また告白をきいた。弥三郎はこれらの人々からかなりの尊敬と信頼を受けて

まにし、道路は文字通り死屍で埋められていた。余等はその中を炎と剣に追われてさまよつうち、偶然シモン彦蔵という信者の一青年に出会い、隠れ家を提供して貰うことができた。そして彦蔵に助けられながら二日後に堺に行き、彦蔵の親戚でやはり信者であるトマス新右衛門に迎えられて当分その屋敷に逗留することとなつた。手当が不十分であつたためバプチスタ師の傷は腐敗して憂うべき状態になつていたし、余もまた負傷と疲労から高熱を發して療養を必要としていたからである。

半月ばかり前に堺の市は秀頼様の命を拒んだ罰として焼払われ、掠奪されていた。その結果多くの人が死傷し、財産を失つたが、新右衛門の家は特別の恩寵によりその災厄を免れていた。

新右衛門の知人の一人が余等二人の治療をしてくれた。林弥三郎、またの名を清安と名乗るその男は自分では本職の医師ではないと言つていたが、なかなか熟練した腕の持主であつた。彼の治療によつて比較的軽傷であつた余は間もなく全快し、重傷のバプチスタ師も二月後には病床を離れ得るまでになつた。弥三郎の本職は画家であり、また鼓の演奏者、一種の即興詩人(連歌師のことであらう)であつて、この堺市の豪商油屋宗祐の庇護を受けてその邸内

いる様子であつた。新右衛門の話では、三年前の大迫害の時、弥三郎は堺の有力者と親しく、且つ奉行の眷顧も受けている自分の立場を利用して、苛酷な迫害の手を少しでも柔げるようにいろいろと尽力してくれたといふことである。更に信者の一人の口から余は弥三郎が以前石田治部殿の家臣であつたことを知らされた。

モラレス師よ、諸師の報告によつて御身もつとに承知しておられようが、この治部殿は亡き太閤様第一の寵臣で、かの高潔なる信者アウグスチノ・小西摂津守殿の親友であつた大名である。十六年前、治部殿とアウグスチノ殿は何ら自分達の野心のためではなく、太閤様への報恩の気持から狡猾な内府様に戦を挑み、敗れて殺されたのであつた。それは丁度余がこの国へ來た年に起つたことで、彼等の処刑を余はこの眼で見たのである。忘れられぬ印象を受けた。極めて聡明な人として知られていた治部殿は、老いて残忍となつた太閤様が發する狂的な命令に手心を加へ、しばしば我々に対して慈悲を示してくれたが、彼の処刑を見た時、余は治部殿は或はイエズス・キリストの御教に心を寄せていたのではないか、という印象を受けたのであつた。この事は長く余の心中に一つの疑問として抱かれて來た。そこで余は、或日、いつもの通り治療に來た弥三郎に